

漢方医学の独自性を自ら放棄しようとしている

聖光園 細野診療所広島診療所
山崎 正寿

漢方治療を行っていていつも思うことは、これは東洋の医学であって西洋の医学ではないんだということ。何を当然なことを今更と言われそうであるが。

先日も耳鳴りと難聴にたいして、耳鼻科にて突発性難聴症と診断を受け、さまざまな治療を施された結果、もうこれ以上治りません、一生このままですと宣告された人が、漢方薬と鍼灸治療により完全に回復することができた。

一体これはどういうことであろう。漢方治療や鍼灸治療は現代西洋医学と異なった方法論と実践法を以て、耳鳴りと難聴を治療することができるのである。自らの行っている現代医学治療が唯一絶対の治療であるかのごとき錯覚に陥っている医療人のアワレサは、見るに見かねる有様である。

ある 60 才後半の社長婦人は、気難しい主人や会社に伴う諸々の雑事に、いつも胃が痛くなったり、食欲がなく、痩せて肥れない。現代医学の胃内視鏡検査ではやるたびに慢性胃炎の診断である。例によってお決まりの制酸剤などが処方されるが、一向に良くなる気配がしない。漢方治療を求められ、何回かの診療の結果、柴芍六君子湯を処方するに到った。これは浅田宗伯のいう「後世方のいわゆる肝実脾虚というところに用うべし」の教えに従ったのであるが、ご本人は大変喜ばれ、胃痛は起らなくなる、食欲も増し、顔色も良くなる、第一肥ってきた。気分が大変明るく積極的になった。かつては鬱の薬まで出されたこともある。一体現代医学の治療薬にこのような効果を望めるであろうか？

ある 30 才台後半の看護婦さん。長年のアトピー性皮膚炎で困っている。目に見える顔などは目立たないが、手足、肩、胸、背中には掻き傷が痛々しい。仕方なく外用ステロイド剤を使用している。夜勤で疲れ汗をかいたりすると痒くて、疲れているのに眠れない。月経も不順で月経前は頭痛が強い。柴胡桂枝湯加牡丹皮・桃仁(小柴胡湯合桂苓丸去茯苓に同じ)を処方した。一年二年と服用するうちに、皮膚の痒みが減り、掻き傷もなくなり、皮膚が艶々としてくる。ステロイドのお世話にもならなくなった。月経不順や頭痛も消失して、美人の看護婦さんに変身。

漢方薬と現代医薬とは似て非なるものと考えるべきではないか。私は患者さんに「漢方薬を長く服用すると、貯金のようなもので、積み重ねの効果がいつの間にか大変大きなものとなって返ってくる。」と言う。現代医薬にそのような効果は期待できない。先人の知恵と経験から生み出された漢方処方方は、単に症状を取り除く以上に、人体にさまざまな効果をもたらす性質を内在しているとも言える。

漢方薬や漢方治療は現代西洋医学の補完的な治療法と見なしているむきがある

が、悲しいかな漢方治療の醍醐味を味わったことのない医療人の偏見であろう。現代西洋医学にはない方法論を以て病気に対応している。それは背景に東洋の思想をもった医学であるからである。合理的科学主義のみを基盤とする医学とは異なった面を持っている。どちらが優れているという問題ではない。漢方医学や鍼灸医学を臨床的に有用性のある医学として存在価値を認めねばならない。

最近東洋医学会の動向として、漢方医学の独自性を喪失せしめるような動きが見られる。漢方医療の現代西洋医療とは異なる特徴を堅持することにこそ、現代に生きる漢方医学の存在意義があるのであって、アイデンティティを失った漢方医学に明日はない。漢方医学を現代西洋医学の傘下に置こうとする動きに対しては断固反対する。